

14時30分解禁

平成30年4月 全国百貨店売上高概況

平成30年5月23日

I. 概 況

1. 売上高総額	4,565億円余
2. 前年同月比	0.7% (店舗数調整後/2か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	80社 220店 (平成30年3月対比-2店)
4. 総店舗面積	5,555,751㎡ (前年同月比:-3.2%)
5. 総従業員数	70,233人 (前年同月比:-3.9%)
6. 3か月移動平均値	9-11月 1.4%、10-12月 -0.1%、11-1月 0.1%、 (店舗数調整後) 12-2月 -0.9%、1-3月 -0.7%、2-4月 0.0%

[参考] 平成29年4月の売上高増減率は0.7% (店舗数調整後)

【特 徴】

4月の売上高は0.7%増と2か月連続のプラスとなった。気温上昇による季節需要の高まりで春夏商材が活発に動いた他、為替や株価が安定的に推移した影響から、大都市を中心として、引き続きインバウンドと高額消費が高い伸びを示した結果、全国ベースで前年実績を上回ることができた。

顧客別では、インバウンド(シェア6.9%/42.9%増)が約316億円と、前月(約290億円)に続いて過去最高額を更新した一方、国内市場(シェア93.1%/1.5%減)は前年には届かなかった。

地区別では、10都市が2.5%増(9か月連続)と好調に推移している。大阪(9.9%増/16か月連続)をはじめ富裕層消費とインバウンド効果の高い6地区(札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡)で前年をクリアしたが、地方(10都市以外の地区)は3.6%減(12か月連続)と苦戦が続いている。

商品別では、化粧品(17.0%増)や美術・宝飾・貴金属(6.6%増)を含む雑貨が9.2%増(17か月連続)と好調さを維持し、売上構成比も全体の2割を超えた。身のまわり品もラグジュアリーブランドや、晴雨兼用傘・サングラス等の季節商材が好調で3.2%増(4か月連続)。衣料品は夏物好調の半面、重衣料が低調で、単価ダウンから1.3%減と前年に届かなかった。

また、食料品は、生鮮食品の高騰や花見需要の前倒しの影響により3.3%減となった他、家庭用品(4.3%減)も売場リースによる面積減などからマイナス基調が続いている。

【要 因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「4月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
◇南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、東・西日本で気温がかなり高かった。また、降水量は東日本日本海側でかなり多くなった。日照時間については、東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美が多かった。
- (2) 営業日数増減 29.9日(前年同月比 ±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日(// ±0日)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数122店舗)
①増加した: 29店、②変化なし: 32店、③減少した: 61店
- (5) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上(同上/有効回答数89店舗)
①増加した: 13店、②変化なし: 53店、③減少した: 23店

全国百貨店 売上高速報 2018年04月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後（ ）が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	456,542,946	100.0	0.7 (0.8)
10都市	324,320,371	71.0	2.5 (3.5)
札幌	12,023,569	2.6	4.0
仙台	5,957,695	1.3	-2.1
東京	127,196,683	27.9	1.9
横浜	27,248,559	6.0	-0.8
名古屋	29,589,307	6.5	5.7
京都	19,355,444	4.2	4.1
大阪	66,835,977	14.6	9.9
神戸	11,248,635	2.5	-30.6 (-4.2)
広島	9,003,753	2.0	-2.4
福岡	15,860,749	3.5	6.3
10都市以外の地区	132,222,575	29.0	-3.6 (-5.2)
北海道	1,223,734	0.3	-4.8
東北	6,408,949	1.4	-6.3 (-9.7)
関東	58,446,838	12.8	-1.7 (-6.6)
中部	10,594,567	2.3	-4.9 (-5.4)
近畿	17,010,674	3.7	-13.3 (-6.5)
中国	9,717,729	2.1	-4.8
四国	7,317,733	1.6	-0.2
九州	21,502,351	4.7	-0.5

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	456,542,946	100.0	0.7 (0.8)
紳士服・洋品	31,980,050	7.0	-0.1 (-0.3)
婦人服・洋品	93,004,643	20.4	-1.3 (-1.4)
子供服・洋品	14,501,267	3.2	-2.4 (-2.4)
その他衣料品	9,355,960	2.0	-4.1 (-4.9)
衣 料 品	148,841,920	32.6	-1.3 (-1.5)
身のまわり品	63,008,619	13.8	3.2 (3.3)
化粧品	46,239,540	10.1	17.0 (17.3)
美術・宝飾・貴金属	27,628,284	6.1	6.6 (6.9)
その他雑貨	17,763,926	3.9	-4.1 (-2.2)
雑 貨	91,631,750	20.1	9.2 (9.8)
家 具	4,712,241	1.0	-4.7 (-4.8)
家 電	983,241	0.2	1.8 (1.5)
その他家庭用品	13,655,083	3.0	-4.6 (-4.7)
家 庭 用 品	19,350,565	4.2	-4.3 (-4.4)
生 鮮 食 品	21,222,043	4.6	-4.7 (-4.2)
菓 子	28,101,552	6.2	-3.7 (-3.2)
惣 菜	25,990,210	5.7	-3.3 (-2.5)
その他食料品	31,208,491	6.8	-1.8 (-1.8)
食 料 品	106,522,296	23.3	-3.3 (-2.8)
食 堂 喫 茶	12,265,706	2.7	-0.9 (-1.0)
サ ー ビ ス	5,283,750	1.2	-2.7 (-3.1)
そ の 他	9,638,340	2.1	0.3 (0.1)
商 品 券	9,758,495	2.1	-3.6 (-5.4)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 2. 5% (店舗数調整後／9か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －3. 6% (店舗数調整後／12か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	2. 5	1. 8	9か月連続プラス
札幌	4. 0	0. 1	3か月連続プラス
仙台	－2. 1	0. 0	3か月連続マイナス
東京	1. 9	0. 5	3か月連続プラス
横浜	－0. 8	－0. 1	9か月ぶりマイナス
名古屋	5. 7	0. 4	3か月ぶりプラス
京都	4. 1	0. 2	2か月連続プラス
大阪	9. 9	1. 3	16か月連続プラス
神戸	－30. 6	－0. 8	8か月連続マイナス
広島	－2. 4	－0. 1	19か月連続マイナス
福岡	6. 3	0. 2	9か月連続プラス
10都市以外の地区	－3. 6	－1. 1	12か月連続マイナス
北海道	－4. 8	0. 0	19か月連続マイナス＊
東北	－6. 3	－0. 1	8か月連続マイナス＊
関東	－1. 7	－0. 2	3か月ぶりマイナス
中部	－4. 9	－0. 1	11か月連続マイナス
近畿	－13. 3	－0. 5	14か月連続マイナス
中国	－4. 8	－0. 1	2か月ぶりマイナス＊
四国	－0. 2	0. 0	5か月連続マイナス
九州	－0. 5	0. 0	5か月連続マイナス＊

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が17か月連続、身のまわり品が4か月連続のプラスとなった。また家庭用品が28か月連続、食料品が11か月連続、衣料品が5か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が37か月連続、美術・宝飾・貴金属が13か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.7	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	-0.1	0.0	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-1.3	-0.3	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-2.4	-0.1	7か月連続マイナス
その他衣料品	-4.1	-0.1	30か月連続マイナス
衣料品	-1.3	-0.4	5か月連続マイナス
身のまわり品	3.2	0.4	4か月連続プラス
化粧品	17.0	1.5	37か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.6	0.4	13か月連続プラス*
その他雑貨	-4.1	-0.2	12か月連続マイナス*
雑貨	9.2	1.7	17か月連続プラス
家具	-4.7	-0.1	7か月連続マイナス
家電	1.8	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-4.6	-0.1	25か月連続マイナス
家庭用品	-4.3	-0.2	28か月連続マイナス
生鮮食品	-4.7	-0.2	49か月連続マイナス*
菓子	-3.7	-0.2	5か月連続マイナス*
惣菜	-3.3	-0.2	7か月連続マイナス*
その他食料品	-1.8	-0.1	2か月ぶりマイナス*
食料品	-3.3	-0.8	11か月連続マイナス
食堂喫茶	-0.9	0.0	12か月連続マイナス
サービス	-2.7	0.0	5か月連続マイナス
その他	0.3	0.0	4か月ぶりプラス
商品券	-3.6	-0.1	86か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成30年4月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年5月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1,271億円余
2. 前年同月比	1.9% (3か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭2.5%(90.9%)：非店頭－3.8%(9.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年3月対比±0店)
5. 総店舗面積	841,329㎡ (前年同月比：－1.3%)
6. 総従業員数	18,189人 (前年同月比：－2.1%)
7. 3か月移動平均値	9-11月 2.7%、10-12月 1.5%、11-1月 1.5%、 12-2月 0.5%、1-3月 0.1%、2-4月 0.8%

[参考] 平成29年4月の売上高増減率は－0.8%

【特徴】

- (1) 各社が積極展開した組織顧客向け企画や文化催事、GW前半のファミリーイベントが集客や売上に貢献。数万人を動員したヒット企画など各種施策が奏功し、入店客数は0.6%増と6か月連続プラス。売上高も1.9%増と3か月連続でプラスした。
- (2) 4月は夏日を9日間記録するなど気温が上昇したことにより、初夏物やUV対策商品の動きが良く、衣料品は2.2%増と2か月連続プラス。春物の中核アイテムであるスプリングコートやブルゾンなど重衣料は低調だったが、ベビー・キッズとも堅調な子供服(2.9%増)をはじめ、紳士服(3.2%増)ではシャツやカットソー、婦人服(2.4%増)はブラウス、ワンピース、スカートなどが好調に推移した。
- (3) 雑貨は、17か月連続プラスの9.3%増で、売上高全体に占める主要5品目のシェアでは、衣料品(シェア31.1%)に次ぐ22.7%となった。高額商材(美術・宝飾・貴金属/4.6%増)と化粧品(15.1%増)は引き続き国内外ともに好調。化粧品ではUVケア美容液等が牽引した他、一部店舗における売場の改装効果もあって、前月に続き二桁増となった。
- (4) 一方、食料品(2.5%減)は、鮮魚の不漁等による価格高騰の影響が続いていることに加え、花見需要の前倒しによりマイナスに転じた。
- (5) 5月中間段階の商況は、0.9%増(5/16)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した：7店、②変化なし：4店、③減少した：8店
- (3) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上(同上/有効回答数12店舗)
①増加した：0店、②変化なし：11店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年04月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	127,196,683	100.0	1.9
紳士服・洋品	11,039,955	8.7	3.2
婦人服・洋品	23,060,440	18.1	2.4
子供服・洋品	3,179,484	2.5	2.9
その他衣料品	2,265,435	1.8	-5.3
衣 料 品	39,545,314	31.1	2.2
身のまわり品	18,976,591	14.9	1.4
化粧品	14,325,900	11.3	15.1
美術・宝飾・貴金属	8,751,171	6.9	4.6
その他雑貨	5,856,024	4.6	3.7
雑 貨	28,933,095	22.7	9.3
家 具	1,372,724	1.1	-2.7
家 電	681,138	0.5	2.2
その他家庭用品	3,742,657	2.9	-7.1
家 庭 用 品	5,796,519	4.6	-5.1
生 鮮 食 品	3,925,907	3.1	-4.1
菓 子	6,920,045	5.4	-0.8
惣 菜	5,918,093	4.7	-3.9
その他食料品	8,396,585	6.6	-2.2
食 料 品	25,160,630	19.8	-2.5
食 堂 喫 茶	2,963,933	2.3	-0.7
サ ー ビ ス	2,461,980	1.9	-1.7
そ の 他	3,358,621	2.6	-5.4

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,228,777 千円	2.4
従 業 員 数	18,189 人	-2.1
店 舗 面 積	841,329 m ²	-1.3

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が17か月連続、身のまわり品が4か月連続、衣料品が2か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が2か月連続、食料品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が37か月連続、美術・宝飾・貴金属が12か月連続、その他雑貨が5か月連続、子供服・洋品が3か月連続、紳士服・洋品、婦人服・洋品が2か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.9	—	3か月連続プラス
紳士服・洋品	3.2	0.3	2か月連続プラス
婦人服・洋品	2.4	0.4	2か月連続プラス
子供服・洋品	2.9	0.1	3か月連続プラス
その他衣料品	-5.3	-0.1	7か月連続マイナス
衣料品	2.2	0.7	2か月連続プラス
身のまわり品	1.4	0.2	4か月連続プラス
化粧品	15.1	1.5	37か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	4.6	0.3	12か月連続プラス*
その他雑貨	3.7	0.2	5か月連続プラス*
雑貨	9.3	2.0	17か月連続プラス
家具	-2.7	0.0	5か月連続マイナス
家電	2.2	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-7.1	-0.2	13か月連続マイナス
家庭用品	-5.1	-0.2	2か月連続マイナス
生鮮食品	-4.1	-0.1	26か月連続マイナス*
菓子	-0.8	0.0	4か月連続マイナス*
惣菜	-3.9	-0.2	4か月連続マイナス*
その他食料品	-2.2	-0.1	2か月ぶりマイナス*
食料品	-2.5	-0.5	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-0.7	0.0	8か月連続マイナス
サービス	-1.7	0.0	2か月ぶりマイナス
その他	-5.4	-0.2	4か月連続マイナス
商品券	2.4	0.0	2か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>